

ペインティング 新世紀

2016 11

月刊美術

No.493

Since 1975

月刊美術

11

No.494
2016

月刊美術11月号

平成二十八年十月二十日発売
第四十五巻第十七号通巻四百九十四号

毎月四日・十日発売



入江一子 雲南ジンポー族まつりの日

ペインティング 新世紀

編集人 岩野裕
発行人 岩野裕

発行 サン・アート
発売 実業之日本社

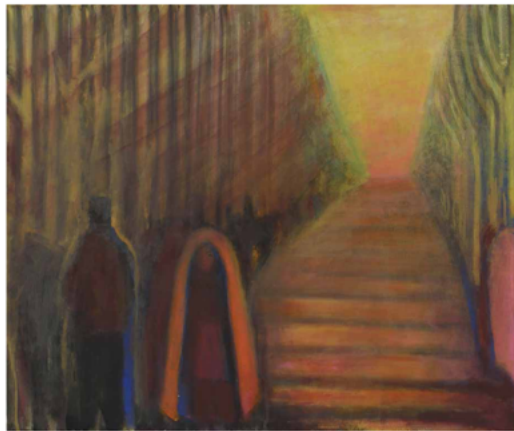
定価一、八九二円（本体一、七五二円）

発行 サン・アート
発売 実業之日本社

雑誌03645-11



《ジュド湖》 48.0×47.0cm 油彩 2016年



《カシュガルの並木道》 20F 油彩 2016年

にはニューヨークの日本ギャラリーで大規模な回顧展を開催。

そして2012年1月にはニューヨーク展の凱旋として入江一子展「シルクロード色彩自在」を日本橋三越で開催した。そのときギャラリートークで入江さんの絵画世界を解説したのが聖路加国際病院理事長の日野原重明氏。当時100歳だった日野原氏は95歳の入江さんへのエールとして「100歳はゴールではなく、関所。ゴールはもっと向こうにある。100歳記念の展覧会をこの三越でやりましょう。その時、私は105歳です」と宣言、入江さんもこれに応じた。

その後入江さんは女子美術大学「女子美術栄誉賞」の第1回を受賞。昨年には神奈川県立近代美術館葉山の「日韓展」に大邸時代の作品が展示されて全国を巡回したほか、浜松市秋野不矩美術館でも特別展が開催されて注目を集めた。日野原氏も学校法人聖路加国際大学の名誉理事長として変わらず多忙な日々を送った。

あれから5年。約束が実現し、再び二人が会場でギャラリートークで対面しての百寿記念展となる。この数年間に独立展に出品した200号の大作3点のほか100号から小品まで全50点を展示して、ますます



《ブータンまつりの日》 200P 油彩 1983年

入江一子シルクロード記念館ホームページ
<http://iriekazuko.com/>

Kazuko IRIE

入江一子

あの日約束した 百歳のスタートライン

洋画家・入江一子さんの百寿を記念した
 自選作品展が東京・日本橋三越本店で開催
 される。5年前のある「約束」を実現する
 記念の展覧会でもある。

入江さんは1916年5月に山口県で生まれた。韓国・大邱で幼少期を過ごしたあと日本の女子美術大学に学び、さらに独立美術協会の創立メンバーでもあった林武に師事するなど、画家としての研鑽を積み重ねた。独立展には38年の第8回展以来、一度も欠かさず出品を続け、今年84回を数える同展の重鎮としても尊敬を集める。特に1970年代からシルクロードを旅し、敦煌、シリア、アフガニスタンなど30か国以上の民族と文化を映した色彩鮮やかな油彩画は他に例を見ない稀有なもの。その画業は2000年に東京・阿佐ヶ谷に開館した入江一子シルクロード記念館で見ることが出来る。展覧会も自ら積極的に企画し09年



撮影：山下武

輝きを放つ入江一子さん。その画業を見つめ直し、新たなスタートラインに立つことを知らせる展覧会となる。 (編集部)

いりえ・かずこ

1916年山口県生まれ。少女時代を韓国・大邱(テグ)で過ごす。33年女学校4年るとき朝鮮美術展の入選作「裏道」がフランス総領事ド・ペールに買い上げられる。38年女子美術専門学校師範科西洋画部(現・女子美術大学)卒業。第8回独立美術協会展入選。洋画家・林武画伯に師事。47年女流画家協会創立会員。53年第21回独立美術協会展独立賞。57年独立美術協会会員。個展多数。2000年入江一子シルクロード記念館(東京・杉並区阿佐ヶ谷)開館。09年入江一子展「シルクロード色彩自在」(日本ギャラリー/ニューヨーク)。12年ニューヨーク個展凱旋記念「入江一子展」シルクロード色彩自在(日本橋三越本店、名古屋三越本店)。13年女子美術大学「女子美術栄誉賞」第1回受賞。15年神奈川県立近代美術館葉山「日韓展」大邸時代の作品展示(巡回6態)。特別展「入江一子展」シルクロード色彩自在(浜松市秋野不矩美術館)。現在、独立美術協会会員、女流画家協会会員。

百寿記念 入江一子 自選展

会期 10月26日(水)〜11月1日(火)
 会場 日本橋三越本店本館6階美術特選
 画廊

☎03(3241)3311

10時30分〜19時30分(最終日17時閉場)
 ギャラリートーク(ゲスト対談) 初日午後2時
 日野原重明氏(学校法人聖路加国際大学
 名誉理事長、聖路加国際病院名誉院長)